

日本学会議
健康・生活科学委員会・歯学委員会合同
脱タバコ社会の実現分科会
(第25期・第4回)
議事録

(敬称略)

1. 日時 令和4年1月12日(水) 16:00~18:00
 2. 場所 オンライン会議
 3. 参加者: 磯、水口、村上、安村、秋葉、朝田、井上、児玉、永田、中山、松本、宮崎、
山下、埴岡、畔上(事務局)
- 欠席者: 香美
4. 議事録: 司会 山下

報告事項

(1) 市民公開シンポジウムの実施報告

シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである」を2021年12月12日に開催、現地およびウェビナー参加で開催された旨報告された。

(2) (3) 分科会内各班の進捗状況

発出された提言「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場を喫煙防止・禁煙支援に活用すべきである」と「子ども・妊婦への受動喫煙対策をさらに充実させるべきである」の社会的波及効果に関する調査結果について村上先生(1班)、児玉先生(2班)より説明がされた。調査票配布先機関、特に行政機関からの回答率は高くないが、提言内容に対し、学協会からは概ね好意的な回答が得られた。但し回答先機関の多くが提言を必要とする機会が少なかったことや今回のアンケート調査の実施により初めて提言の存在に気づくという状況が明らかとなった。一方で、このようなアンケート調査を行うことで提言のリマインド効果があることが認められた。

埴岡先生(3班)より、加熱式たばこの安全性を誇張する広告や医療系の専門家を巻き込んで加熱式たばこの使用を広めようとするたばこ産業界の動きが認められるとの

指摘がされ、このような動きを放置することでこれまでの喫煙防止や禁煙支援の活動成果が毀損される恐れがあることが指摘された。

議題

(1) インパクトレポート提出の承認

1班および2班のインパクトレポートを承認した。

(2) 来年度に向けた活動方針の決定

i) 提言の波及効果についての検証作業と報告書の作成について

本分科会からの提言に限らず、日本学術会議から発出される提言が意義あるものとして社会に受け入れられていない、提言の位置づけや発出方法について問題があるなどの指摘がされた。しかし、この問題を突き詰めても本分科会の提言に限らずすべての意思（提言）の表出が抱える根本的な問題となり、作業の目標が設定し辛いのではないかとの意見が出された。したがって、検証作業をこれ以上追求することは止めて、これまでの成果を次の意思（提言）の表出作業に生かすこととした。

ii) 新しい提言の作成について

「加熱式たばこに対する対応」について提言作成を行う。

提言の内容として、たばこ産業では紙巻たばこと比較して安全なイメージを強調して社会への普及を目指す動きがあるが、公衆衛生学の立場に立って、あくまで健康を害するたばこの一つとして、加熱式たばこの喫煙も回避すべきリスクが存在することを訴える。その一つの方法として、がん以外の健康影響、例えば循環器疾患、歯周病、低体重出生などを幅広く含め、トータルな健康影響を明示することで安易なハームリダクションのイメージを払拭する。また、加熱式たばこにより、禁煙の機会が失われるという問題を指摘する、などの提案がされた。さらに、国あるいはたばこメーカーに対し、どのようなメッセージを届けるべきかも課題として挙げられた。

今後、埴岡先生を中心に提言を纏めるが、作業に当たっては外部の専門家の協力を得ることを確認した。

その他

なし